

## 全国学力・学習状況調査の「結果」及び「改善」について

『平成30年度 全国 学力・学習状況調査』の本校の結果をお知らせいたします。

本調査は、国が全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、国語と算数の2教科における各校の児童の学力や学習状況を把握することを目的とし、小学校第6学年と中学校第3学年を対象に、平成30年4月17日、全国一斉に実施したものです。

今年度の美しが丘小学校6学年の平均正答率は、国語、算数ともに全国の平均正答率とほぼ並ぶ結果が見られます。以下に、本校の課題と改善の方向を掲載いたします。

### 調査教科と調査事項

#### ◆国語A／算数A：主として「知識」に関する問題

～身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした出題。

#### ◆国語B／算数B：主として「活用」に関する問題

～知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力などにかかわる内容を中心とした出題。

#### <記号の意味>・・・全国平均正答率と比較して

(△) 上回っている (+3.1%以上)      (◇) やや上回っている (+3%以内)  
(▼) 下回っている (-3.1%以下)      (◆) やや下回っている (-3%以内)

## 国語の結果

### 本校の概要

相手や目的に応じて、内容や順序を工夫しながら自分が伝えたいことを話すことへの理解は高いと言えます。一方で、物語のような創造的な文章を表現する上で、文章全体の構成の効果を考えて書くことに課題が見られます。

### 【国語A】

正答率における全国との比較	成果(○) / 課題(●)	改善の方向 (課題に関して)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと・聞くこと」の平均正答率 (△) 全国平均を上回っている。</li> <li>・「書くこと」の平均正答率 (▼) 全国平均を下回っている。</li> <li>・「読むこと」の平均正答率 (△) 全国平均を上回っている。</li> <li>・「言語事項」の平均正答率 (◆) 全国平均をやや下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すこと。</li> <li>●自分の構想したことを物語に表現するために文章全体の構成の効果を考えること。</li> <li>○登場人物の心情について、情景描写を基に捉えること。</li> <li>●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「現在と過去を行き来して書く」等の構成例を学ぶ機会を通して、構成を工夫して書くことができるよう指導する。「読むこと」の指導との関連を図り、複数の物語を読むことを通じて構成の効果を捉えさせる。</li> <li>・同じ音や部分をもつ漢字との違いや文脈の中での使い方に着目できるように指導しながら、日常生活の中で適切に使うことができるようにする。</li> </ul>

## 【国語B】

正答率における全国との比較	成果(○) / 課題(●)	改善の方向 ( 課題に関して )
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「<b>話すこと・聞くこと</b>」の平均正答率 (◇) 全国平均をやや上回っている。</li> <li>・「<b>書くこと</b>」の平均正答率 (◆) 全国平均をやや下回っている。</li> <li>・「<b>読むこと</b>」の平均正答率 (◇) 全国平均をやや上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。</li> <li>●目的や意図に応じ、文章全体の構成の効果を考えること。</li> <li>○目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設問は、「推薦文」をテーマに推薦する事物・相手・目的・意図・理由を明かにすることの重要性が求められている。故に、文章の種類や特徴を踏まえた上で、文章全体の構成とその効果を考えるよう指導していく。</li> </ul>

### 今後の重点として

## 国語科では、次のような指導に努めていきます。

- 目的や意図に応じて「話し合う」「書く」「読む」ことが為されているかどうかを、学習の観点として一層重視していきます。
- 話し手の意図を捉えながら聞いたり、話の展開に沿って話したりする学習を大切にします。
- 書いたり読んだりする上で、自分の考えを明確に表すことができる学習を大切にします。
- 様々な場面での漢字の使用を促すとともに、辞書を進んで利用する習慣を培う環境づくりを図ります。

## 算数の結果

### 本校の概要

示された考え方や情報の解釈に関しては成果が見られます。一方で、それらを基に新たな問題を解決することや、それらを関連付けて考察したり特徴や規則性を見出したりすることに課題が見られます。

## 【算数A】

正答率における全国との比較	成果(○) / 課題(●)	改善の方向 ( 課題に関して )
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「<b>数と計算</b>」の平均正答率 (◆) 全国平均をやや下回っている。</li> <li>・「<b>量と測定</b>」の平均正答率 (◆) 全国平均をやや下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1にあたる大きさを求めるにあたり、除数が小数の場合も除数を用いることの理解。</li> <li>●単位量あたりの大きさを求める除数の式と商の意味の理解。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「問題場面における数量の関係を理解する」「数量の関係を図や数直線等に表す」「図や数直線等を基に立式し、計算の意味を確認する」といった一連の活動を繰り返し設定する。</li> <li>・(設問に照らした場合) 面積と人数のどちらか一方の量を揃えて込み具合を比べる際、1㎡あたりの人数や1人あたりの面積を導き出す式が立てられることを捉える学習を充実する。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「図形」の平均正答率 (◆) 全国平均をやや下回っている。</li> <li>・「数量関係」の平均正答率 (▼) 全国平均を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●円周率の意味についての理解。</li> <li>●折れ線グラフから変化の特徴を読み取ること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業的・体験的な活動、例えば、身の回りにある円の形をしたものの円周と直径の長さを実際に測定する活動を大切にし、円周の直径に対する割合が約 3.14 倍になっていることを理解できるようにする。</li> <li>・時間の経過に伴う変化だけではなく、二つの変化する数量の間の関係（設問に照らした場合、同時刻の気温の違い）を読み取る学習を充実する。</li> </ul>
--	---	--

## 【算数B】

正答率における全国との比較	成果(○) / 課題(●)	改善の方向（課題に関して）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「数と計算」の平均正答率 (◆) 全国平均をやや下回っている。</li> <li>・「量と測定」の平均正答率 (◆) 全国平均をやや下回っている。</li> <li>・「図形」の平均正答率 (▼) 全国平均を下回っている。</li> <li>・「数量関係」の平均正答率 (△) 全国平均を上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●規則性を解釈し、その条件に合うものを選ぶこと。</li> <li>●示された数量を関連付け、根拠を明確にしながら式や言葉を用いて考えること。</li> <li>●条件に合う図形を見出すこと。</li> <li>○棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断できること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象から規則性を見出し、変化や対応の関係を基に、条件に適当なものを判断できるようにする。</li> <li>・複数の情報から数量の関係を児童自らが見出し、関連付けて論理的に考察したり、数学的に表現したりする学習の場を充実する。</li> <li>・図形の構成要素や性質を基にしながら、条件が成り立つかどうか考察する学習を大切にする。</li> </ul>

今後の重点として

### **算数科では、次のような指導に努めていきます。**

- 算数の学習で習得したことが日常生活の中で活用されるよう、学習指導に工夫を凝らします。
- 式と図等とを結び付けて、論理的に考察することができるよう力を培います。
- 筋道を立てて考えたり、判断の根拠を説明したりする学習を大切にします。
- 「TT活用による習熟度別少人数指導」等を積極的に実施することにより、一人一人の「できる・分かる」を目指します。

## 理 科 の 結 果

### 本校の概要

実験や観察の方法を理解・構想に成果が見られました。一方で、調べたことや実験したことを基に考察する際、条件や結果を踏まえて解釈・分析することに課題が見られます。

## 【理科】

正答率における全国との比較	成果(○) / 課題(●)	改善の方向 ( 課題に関して )
<p>・「物質」の平均正答率 (◇) 全国平均をやや上回っている。</p> <p>・「エネルギー」の平均正答率 (◆) 全国平均をやや下回っている。</p> <p>・「生命」の平均正答率 (△) 全国平均を上回っている。</p> <p>・「地球」の平均正答率 (▼) 全国平均を下回っている。</p>	<p>○ろ過の適切な操作方法を身に付けていること。</p> <p>○2つの異なる方法の実験結果を分析して考察すること。</p> <p>●乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを、実際の回路に通用すること。</p> <p>○安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察する方法を構想すること。</p> <p>○骨と骨のつなぎ目について科学的な言葉や概念を理解していること。</p> <p>●堆積作用について科学的な言葉や概念を理解していること。</p> <p>●より妥当な考えをつくり出すために、実験結果を基に分析して考察すること。</p>	<p>・学んだことを基にしたものづくりへの適用ができるようにする指導を大切にする。その際、他者と目的を確認し合ったり不具合の原因・修正を考察し合ったりする活動を充実することで、知識の活用を促していく。</p> <p>・①実際の自然の事物・現象に適用しながら、②モデル実験から得られた結果を基に、③事物・現象の画像を用いて説明しながら、科学的な言葉や概念を理解することができるような指導を図る。</p> <p>・観察や実験の結果を基に予想にとらわれず事実(条件と結果)を捉え、この事実からの確に解釈することを大切にした学習活動の充実を図る。</p>

今後の重点として

### **理科では、次のような指導に努めていきます。**

- 器具の操作の意味を捉え、適切な扱い方を理解する学習の充実を一層図っていきます。
- 観察・実験の結果を基に、その事実と自らの考察の両方を大事にしていくことができる姿勢を培います。
- 学習を通して獲得した知識を、実際の日常生活の事柄に当てはめて考えることができる姿勢を育てます。
- 自主的な観察の機会をできる限り設定することを通して、観察・記録の技能の習得・向上を図ります。

今回の調査は、教科・学年ともに限られたものではございますが、これまでの取組の成果・課題の表れとしてしっかりと受け止め、「改善の方向」に記載しましたような学習指導や学習活動の重視・充実に全学年を通して努めていきたいと思っております。